BBIQ光電話無線ルータの設定方法

BBIQ光電話無線ルータ設定画面の起動・終了方法

各機能の設定画面（BBIQ光電話無線ルータ設定画面）は、Webブラウザからia201WL4内の設定サーバにアクセスすることで起動されます。

【手順】

1. ia201WL4のLAN 1～4ポートのいずれかにPCを接続します。
2. PCのWebブラウザのアドレス欄にhttp://192.168.0.1/と入力し、キーボードの「Enter」または「return」を押します。
3. ログインのダイアログにしたがってユーザー名とパスワードを入力します。
4. ユーザが認証されるとBBIQ光電話無線ルータ設定画面のトップページが開きます。

注意

- 使用可能なWebブラウザ：Internet Explorer(R) 7.0以上 / Firefox 17.0以上/ Safari 5.0 / Google Chrome 23.0以上
- Safariの画面は「設定方法」の画面イメージとは多少異なります。
- FirefoxでBBIQ光電話無線ルータ設定画面にアクセス中、「～のパスワードをFirefoxに記憶させますか？」のメッセージが現れたときは「このサイトでは記憶しない」ボタンをクリックし、http://192.168.0.1（BBIQ光電話無線ルータ設定画面）内ではパスワードを保存しないようにしてください。
- WebブラウザはJavaスクリプトを有効にしてください。
- ユーザー名は「admin」固定で変更できません。
- パスワードについては、取扱説明書の「BBIQ光電話無線ルータ設定画面の開き方」を参照してください。
- BBIQ光電話無線ルータ設定画面サーバへのログインは1ユーザ（ユーザー名：admin）のみです。
- 設定画面でグレーアウトされた項目は設定することができません。

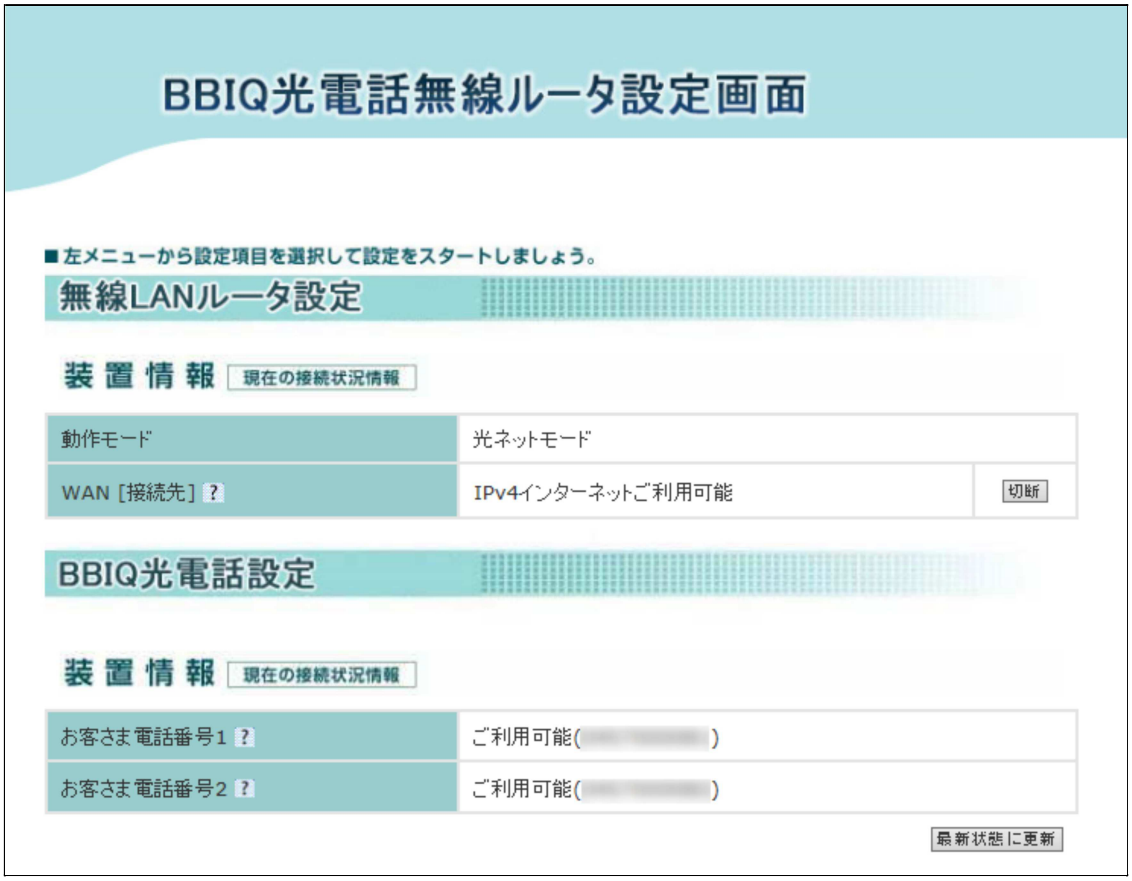
設定を終えるにはWebブラウザを閉じます。

注意

- 設定を変更した場合は、必ずBBIQ光電話無線ルータ設定画面の左上の「保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。
- 設定を保存せずにWebブラウザを閉じた場合、設定した内容が本機器に反映・保存されません。

BBIQ光電話無線ルータの設定方法

BBIQ光電話無線ルータ設定画面



無線LANルータ設定

WAN[接続先]
インターネット(IPv4)の接続状態を表示します。

- IPv4インターネットご利用可能
- IPv4インターネット未接続（接続不可）
- IPv4インターネット（リンクDOWNエラー）
- IPv4インターネット（PPP自切断）
- IPv4インターネット（同時接続オーバー）
- IPv4インターネット（PPP相手切断）
- IPv4インターネット（PPPoE相手無応答）
- IPv4インターネット（PPP ECHOエラー）
- IPv4インターネット（PPPタイムアウト）
- IPv4インターネット（PPP認証エラー）
- IPv4インターネット（PPP認証タイムアウト）
- IPv4インターネット（その他のエラー）

BBIQ光電話設定

お客さま電話番号1
お客さま電話番号1の接続状態を表示します。

- ご契約なし
- 一時的にご利用不可
- ご利用可能

お客さま電話番号2
お客さま電話番号2の接続状態を表示します。

- ご契約なし
- 一時的にご利用不可
- ご利用可能

接続先設定(PPP)

接続先設定(PPP)

Ping応答

インターネット接続から受信した本機器のWAN側IPアドレスに対する、Ping要求に対して応答するかどうかを指定します。応答する場合は許可をチェックします。

無線LAN基本設定

無線LANの基本的な設定を行います。
※無線ルータ機能をご利用される場合のみ設定可能な項目です。

無線LAN基本設定

無線LANの基本的な設定を行います。

2.4GHz通信機能

2.4GHz帯の無線LAN通信(IEEE 802.11b/11g/11n)を使用する場合は、チェックを入れます。
停止する場合は、「使用する」のチェックを外してください。
※2.4GHz帯の無線LAN通信を停止しても、5GHz帯の無線LAN通信と、有線でのインターネット接続は、ご利用いただけます。
※本設定はプライマリSSID/セカンダリSSIDどちらに対しても有効になります。
※2.4GHz帯の無線LAN通信は、一部の家電などでも使用しているため、電波干渉が起きる場合があります。ご利用の子機が対応していれば、5GHz帯の無線LAN通信に接続していただく方が安定した通信が行える傾向にあります。

5GHz通信機能

5GHz帯の無線LAN通信(IEEE 802.11a/11n/11ac)を使用する場合は、チェックを入れます。
停止する場合は、「使用する」のチェックを外してください。
※5GHz帯の無線LAN通信を停止しても、2.4GHz帯の無線LAN通信と、有線でのインターネット接続は、ご利用いただけます。
※本設定はプライマリSSID/セカンダリSSIDどちらに対しても有効になります。
※2.4GHz帯の無線LAN通信は、一部の家電などでも使用しているため、電波干渉が起きる場合があります。ご利用の子機が対応していれば、5GHz帯の無線LAN通信に接続していただく方が安定した通信が行える傾向にあります。

11ac設定

IEEE802.11acに関する設定を行います。

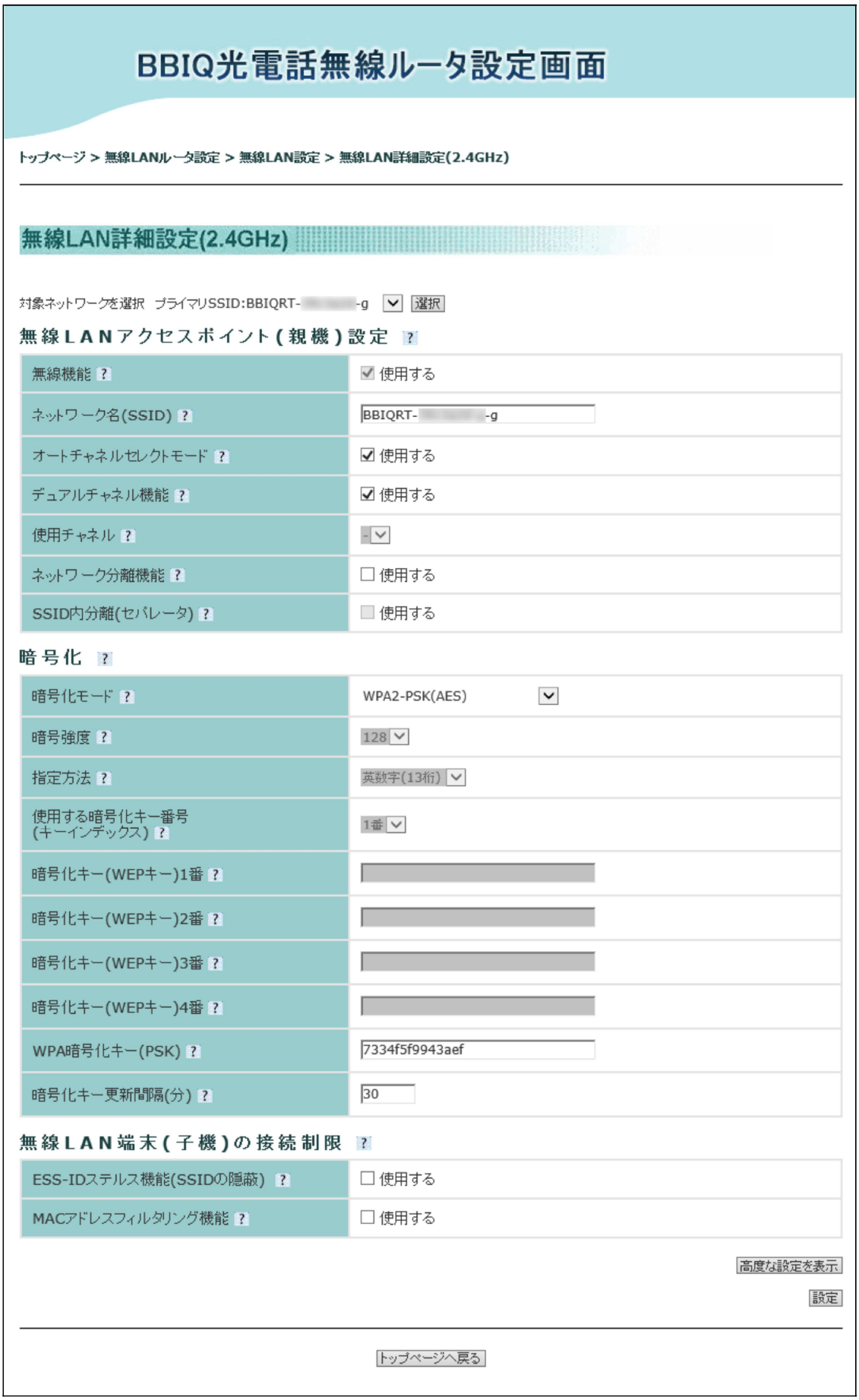
ショートガードインターバル

ショートガードインターバルの利用を設定します。
ガードインターバルとは、各データが前後のデータとお互いに干渉しないように挿入される時間のことです。
無線通信を行う場合、送信側から受信側に直接届く電波のほかに、壁や天井に反射されて遅れて届く電波が存在するため、ガードインターバルを利用して時間差で届くデータの干渉を防いでいます。

- ショートガードインターバルを「有効」にする
  ガードインターバルは800ns（ナノ秒）と400nsを自動的に切り替えます。400ns利用時にスループットが最大になります。
- ショートガードインターバルを「無効」にする
  ガードインターバルは800nsに固定されます。

ショートガードインターバルを「有効」にすると、挿入される時間が400nsに短縮するため、速度が向上する場合があります。
ただし、時間差で届くデータの干渉がおこりやすくなるため、電波環境が不安定な場合は、「無効」にしていただくことで通信が安定する場合があります。

無線LAN詳細設定(2.4GHz)



対象ネットワークを選択

設定変更を行いたいSSID(プライマリSSIDまたはセカンダリSSID)を選択します。

無線LANアクセスポイント（親機）設定

2.4GHz帯の無線LAN通信(IEEE 802.11b/11g/11n)に関する設定を行います。

無線機能

プライマリSSIDでは本設定は変更できません。セカンダリSSIDのネットワークを使用する場合は「使用する」にチェックを入れてください。

一部ゲーム機などで、セキュリティ強度の低いネットワークを使用したりする場合に、強固なセキュリティを設定したメインのネットワーク（プライマリSSID）とは分離されたネットワーク（セカンダリSSID）を設定することができます。

ネットワーク名(SSID)

本機器の2.4GHz帯の無線LAN通信で使用するネットワーク名(SSID)を入力します。

半角英数字、-（ハイフン）、_（アンダースコア）を使用して32文字以内で入力してください。

なお、本機器のほかのネットワーク名(SSID)と同一の名称を使用することはできません。

無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）から2.4GHz帯の無線LANに接続する場合は、無線LAN設定時に、ここで設定したネットワーク名(SSID)を選択します。

オートチャネルセレクトモード

オートチャネルセレクトモードを利用する場合は、チェックをします。空いているチャネルを検出し、電波状態の良いチャネルを自動選択します。

任意に使用するチャネルを選択したい場合は、チェックを外してください。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

デュアルチャネル機能

デュアルチャネル機能を使用する場合は、チェックをします。20MHzバンドの通信チャネルを2本束ねて利用し、40MHzバンドでの高速通信を行います。なお、デュアルチャネルに対応していない子機との通信は20MHzバンドの通信となります。プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

使用チャネル

使用するチャネルを選択します。オートチャネルセレクトモードを「使用しない」に設定した場合に有効になります。複数のアクセスポイントが設置されている環境など電波干渉がある場合には、使用する無線チャネル番号を変更してください。また、デュアルチャネル機能を利用する場合には、選択可能チャネルは、デュアルチャネルで指定可能なチャネルに変更してください。

ネットワーク分離機能

ネットワーク分離機能を使用する場合は、チェックをします。「使用する」に設定したネットワーク名(SSID)に接続している無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）には以下の制限がかかります。

- 「BBIQ光電話無線ルータ設定画面」に接続できない。
- 本機器にLANケーブルで接続された端末に接続できない。
- 本機器に、他のネットワーク名(SSID)で無線接続された無線LAN端末に接続できない。

※インターネットへの接続と同じネットワーク名(SSID)に無線接続された端末との通信は可能です。

一部ゲーム機などで、セキュリティ強度の低いネットワークを使用したりする場合に、強固なセキュリティを設定したメインのネットワークとは分離されたネットワークを設定することができます。

SSID内分離（セパレータ）

SSID内分離（セパレータ）を使用する場合は、チェックをします。「使用する」に設定したネットワーク名(SSID)に接続している無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）は、インターネットへの接続のみが許可されます。

本機能を使用する場合は、ネットワーク分離機能を「使用する」に設定する必要があります。

ネットワーク分離機能に加えて、さらにセキュリティを高めたい場合に使用します。

暗号化

暗号化に関する設定を行います。

暗号化モード

暗号化モードを選択します。暗号化モードを有効にすると無線LANでの送受信データが暗号化され、第三者に傍受されにくくなります。

WEP＜TKIP＜AESの順で、暗号化データは解読されにくくなります。暗号化を行わずに無線LAN通信を行うことは、セキュリティ上、大変危険なため、必ず設定していただくことをおすすめします。

※初期値では、プライマリSSID側では「WPA2-PSK(AES)」が有効になっており、通常はこのままご利用いただくことをおすすめします。

ただし、一部ゲーム機などで、セキュリティ強度の低いネットワークを使用される場合は、セカンダリSSID（初期値:使用する）を有効にし、異なる暗号化モードと同時にご利用ください。

暗号強度

WEPを利用する場合は、暗号強度を選択します。64bit＜128bitの順で解読されにくくなりますが、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）も同じ暗号強度に対応している必要があります。暗号化キー1～4番は、すべて同じ暗号強度になります。

ご利用の無線LAN端末が、より強固な暗号化(AES)に対応している場合は、WEPではなくAESをご利用いただくことをおすすめします。

指定方法

WEPを利用する場合の暗号化キー（解読パスワード）の指定方法を選択します。英数字（0～9、a～z、A～Zで構成される文字列）、または16進（0～9、a～f、A～Fで構成される文字列）から選択してください。本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）も同じ指定方法で設定する必要があります。暗号化キー1～4番は、すべて同じ指定方法になります。

ご利用の無線LAN端末が、より強固な暗号化(AES)に対応している場合は、WEPではなくAESをご利用いただくことをおすすめします。

使用する暗号化キー番号（キーインデックス）

暗号化キー1番から暗号化キー4番に入力した暗号化キーのうち、どれを使用するかを設定します。

無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）によっては「1番」にしか接続できない場合がありますので、通常、「1番」を指定しておくことをおすすめします。

暗号化キー（WEPキー）1番

［指定方法］で選んだ文字列を［暗号強度］で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

暗号化キー（WEPキー）2番

［指定方法］で選んだ文字列を［暗号強度］で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

暗号化キー（WEPキー）3番

［指定方法］で選んだ文字列を［暗号強度］で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

暗号化キー（WEPキー）4番

［指定方法］で選んだ文字列を［暗号強度］で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

WPA暗号化キー(PSK)

プライマリSSID選択時の暗号化モードとして、WPA/WPA2-PSK(TKIP/AES)、WPA/WPA2-PSK(AES)、WPA2-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES)を使用する場合の暗号化キー(Pre Shared Key)を入力します。

セカンダリSSID選択時の暗号化モードとして、WPA2-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES)を使用する場合の暗号化キー(Pre Shared Key)を入力します。

英数記号（0～9、a～z、A～Z、記号）で8～63桁、または16進数（0～9、a～f、A～F）で64桁を入力してください。

ここで設定していただいた暗号化キーを、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

暗号化キー更新間隔（分）

暗号化キーの更新間隔（分）を入力します。WPAでは、暗号化キーは一定期間ごとに自動的に更新されて、より安全な状態を保ちます。入力できる値は、0（更新なし）、1～1440分です。

無線LAN端末（子機）の接続制限

無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）から本機器への接続を制限する設定を行います。

ESS-IDステルス機能（SSIDの隠蔽）

無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）から無線LANアクセスポイント（親機）を検索したときに、本機器のネットワーク名(SSID)が見えないようにする場合は、チェックをします。

あらかじめ本機器のネットワーク名(SSID)を知っている無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）以外からの本機器への接続を制限することができますので、悪意のある第三者に本機器を利用される可能性を低くすることができます。

MACアドレスフィルタリング機能

あらかじめ本機器に登録したMACアドレスを持つ無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）以外から、本機器への無線LAN接続を制限する場合はチェックをします。

登録されている無線LAN端末以外からの本機器への接続を制限することができますので、悪意のある第三者に本機器を利用される可能性を低くすることができます。

MACアドレスフィルタリング機能を使用する場合は、別途「MACアドレスフィルタリング」画面で無線LAN端末（パソコン・ゲーム機・プリンターなど）のMACアドレスを登録しておく必要があります。

※MACアドレスとは、ネットワーク機器を識別するために割り振られる固有のアドレスです。

拡張設定

より高度な設定を行います。

拡張設定を行う場合は、「高度な設定を表示」のボタンをクリックしてください。

送信出力

無線LANの送信出力を選択します。送信出力を低く設定すると、ほかのネットワークとの電波干渉を回避できることがありますが、無線LAN端末（パソコン・ゲーム機・プリンターなど）との距離がある場合などは、無線LAN通信が不安定になる場合があります。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

プロテクション機能

無線LAN端末（パソコン・ゲーム機・プリンターなど）との通信にRTS/CTSフロー制御を行う場合は「使用する」にチェックを入れます。

接続する無線LAN子機が少ない場合や、周囲に他の無線LAN親機が存在しない場合には「使用しない」に設定してください。

他の無線LAN子機が多い場合や、他の無線LAN親機が存在する場合には「使用する」を選択することにより、無線LAN通信速度が向上する場合があります。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

無線優先制御機能

無線LAN通信の優先制御機能を有効にします。WMM(Wi-Fi Multimedia)方式に、原則として準拠した機能で、特定の通信にのみ優先順位を付けることで、映像や音声のストリーミング時などに、データが途切れないように帯域が確保できるようになっています。

IEEE802.11n 通信ご利用時には、本機能を必ず「使用する」に設定してください。

DTIM（回）

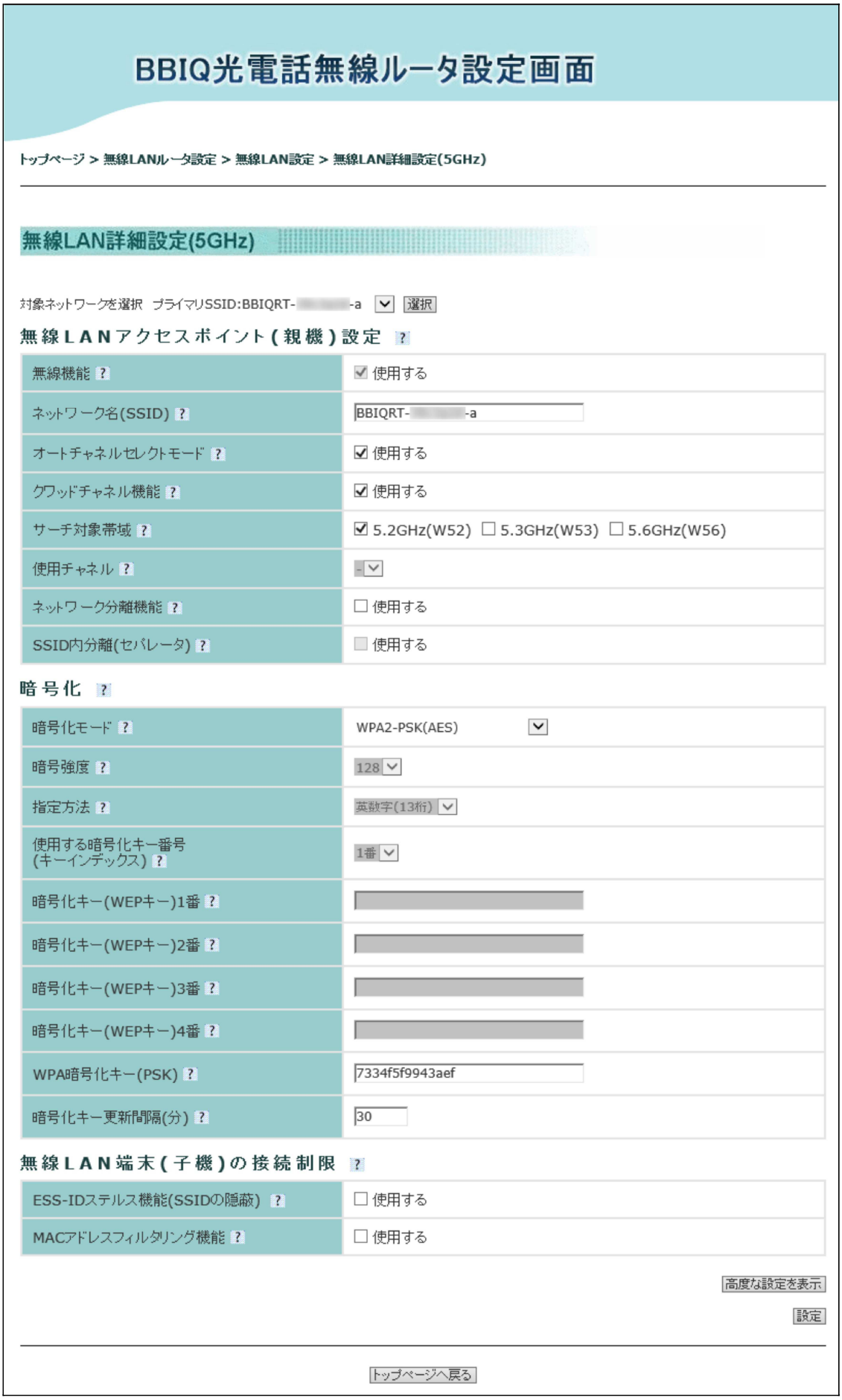
ビーコン（無線LAN接続のために本機器から一定間隔で送信するパケット）に対して、どの程度の間隔でDTIMを含めるかを設定します。

DTIMとは省電力モードによって休止している無線LAN端末（スマートフォン・パソコン・ゲーム機など）に対して、該当の無線LAN端末宛のデータが届いた際に、すぐに受け取れるよう省電力機能を解除する信号です。

通常は、初期値のままで使用してください。入力できる値は、1～10回です。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

無線LAN詳細設定(5GHz)



対象ネットワークを選択

設定変更を行いたいSSID(プライマリSSIDまたはセカンダリSSID)を選択します。

無線LANアクセスポイント(親機)設定

5GHz帯の無線LAN通信(IEEE 802.11a/11n/11ac)に関する設定を行います。

無線機能

プライマリSSIDでは本設定は変更できません。セカンダリSSIDのネットワークを使用する場合は「使用する」にチェックを入れてください。

一部ゲーム機などで、セキュリティ強度の低いネットワークを使用したりする場合に、強固なセキュリティを設定したメインのネットワーク(プライマリSSID)とは分離されたネットワーク(セカンダリSSID)を設定することができます。

ネットワーク名(SSID)

本機器の5GHz帯の無線LAN通信で使用するネットワーク名(SSID)を入力します。

半角英数字、-(ハイフン)、_(アンダースコア)を使用して32文字以内で入力してください。

なお、本機器のほかのネットワーク名(SSID)と同一の名称を使用することはできません。

無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)から5GHz帯の無線LANに接続する場合は、無線LAN設定時に、ここで設定したネットワーク名(SSID)を選択します。

オートチャネルセレクトモード

オートチャネルセレクトモードを使用する場合は、チェックをします。空いているチャネルを検出し、電波状態の良いチャネルを自動選択します。

任意に使用するチャネルを選択したい場合は、チェックを外してください。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

クワッドチャネル機能

クワッドチャネル機能を使用する場合は、チェックをします。クワッドチャネルを利用すると、20MHz幅の通信チャネルを4本束ねて利用し、80MHz幅での通信を行います。

なお、本機能を使用する場合、クワッドチャネルに対応していない子機との通信は20MHzバンドまたは40MHzバンドの通信となります。プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

サーチ対象帯域

オートチャネルセレクトモードを「使用する」に設定した場合、オートチャネルによりサーチする周波数帯を選択します。本機器に無線接続する無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)で対応した周波数帯域に合わせて設定してください。

複数設定することも可能です。

使用チャネル

本機器の5GHz帯の無線LAN通信で使用するチャネルを選択します。オートチャネルセレクトモードを「使用しない」に設定した場合に有効になります。

複数のアクセスポイントが設置されている環境など電波干渉がある場合には、使用する無線チャネル番号を変更することで、無線通信が安定する場合があります。

自動的に電波状態の良いチャネルを選択して接続する場合は、オートチャネルセレクトモードを「使用する」に変更してください。

クワッドチャネル機能を利用する場合には、選択可能チャネルは、クワッドチャネルで指定可能なチャネルに変更されます。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

ネットワーク分離機能

ネットワーク分離機能を使用する場合は、チェックをします。「使用する」に設定したネットワーク名(SSID)に接続している無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)には以下の制限がかかります。

- 「BBIQ光電話無線ルータ設定画面」に接続できない。
- 本機器にLANケーブルで接続された端末に接続できない。
- 本機器に、他のネットワーク名(SSID)で無線接続された無線LAN端末に接続できない。

※インターネットへの接続と同じネットワーク名(SSID)に無線接続された端末との通信は可能です。

一部ゲーム機などで、セキュリティ強度の低いネットワークを使用したりする場合に、強固なセキュリティを設定したメインのネットワークとは分離されたネットワークを設定することができます。

SSID内分離(セパレータ)

SSID内分離(セパレータ)を使用する場合は、チェックをします。「使用する」に設定したネットワーク名(SSID)に接続している無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)は、インターネットへの接続のみが許可されます。

本機能を使用する場合は、ネットワーク分離機能を「使用する」に設定する必要があります。

ネットワーク分離機能に加えて、さらにセキュリティを高めたい場合に使用します。

注意

5.3/5.6GHz帯域のチャネルを選択した場合は、法令により次のような制限事項があります。

- 各チャネルの通信開始前に1分間のレーダー波検出を行いますので、その間は通信を行えません。
- 通信中にレーダー波を検出した場合は、自動的にチャネルを変更しますので、通信が中断されることがあります。

暗号化

暗号化に関する設定を行います。

暗号化モード

暗号化モードを選択します。暗号化モードを有効にすると無線LANでの送受信データが暗号化され、第三者に傍受されにくくなります。

WEP＜TKIP＜AESの順で、暗号化データは解読されにくくなります。暗号化を行わずに無線LAN通信を行うことは、セキュリティ上、大変危険なため、必ず設定していただくことをおすすめします。

※初期値では、プライマリSSID側では「WPA2-PSK(AES)」が有効になっており、通常はこのままご利用いただくことをおすすめします。

ただし、一部ゲーム機などで、セキュリティ強度の低いネットワークを使用される場合は、セカンダリSSID（初期値:使用する）を有効にし、異なる暗号化モードと同時にご利用ください。

暗号強度

WEPを利用する場合は、暗号強度を選択します。64bit＜128bitの順で解読されにくくなりますが、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）も同じ暗号強度に対応している必要があります。暗号化キー1～4番は、すべて同じ暗号強度になります。

ご利用の無線LAN端末が、より強固な暗号化(AES)に対応している場合は、WEPではなくAESをご利用いただくことをおすすめします。

指定方法

WEPを利用する場合の暗号化キー（解読パスワード）の指定方法を選択します。英数字（0～9、a～z、A～Zで構成される文字列）、または16進（0～9、a～f、A～Fで構成される文字列）から選択してください。本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）も同じ指定方法で設定する必要があります。暗号化キー1～4番は、すべて同じ指定方法になります。

ご利用の無線LAN端末が、より強固な暗号化(AES)に対応している場合は、WEPではなくAESをご利用いただくことをおすすめします。

使用する暗号化キー番号（キーインデックス）

暗号化キー1番から暗号化キー4番に入力した暗号化キーのうち、どれを使用するかを設定します。

無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）によっては「1番」にしか接続できない場合がありますので、通常、「1番」を指定しておくことをおすすめします。

暗号化キー（WEPキー）1番

[指定方法]で選んだ文字列を[暗号強度]で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

暗号化キー（WEPキー）2番

[指定方法]で選んだ文字列を[暗号強度]で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

暗号化キー（WEPキー）3番

[指定方法]で選んだ文字列を[暗号強度]で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

暗号化キー（WEPキー）4番

[指定方法]で選んだ文字列を[暗号強度]で設定した桁数分、暗号化キー（WEPキー）として入力します。

英数字の場合は、0～9、a～z、A～Z、16進数の場合は、0～9、a～f、A～Fで構成された任意の文字列をご入力ください。

ここで設定していただいた暗号化キー（WEPキー）を、本機器と通信する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）の無線設定の際に入力します。

WPA暗号化キー(PSK)

プライマリSSID選択時の暗号化モードとして、WPA/WPA2-PSK(TKIP/AES)、WPA/WPA2-PSK(AES)、WPA2-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES)を使用する場合の暗号化キー(Pre Shared Key)を入力します。

セカンダリSSID選択時の暗号化モードとして、WPA2-PSK(TKIP/AES)、WPA2-PSK(AES)を使用する場合の暗号化キー(Pre Shared Key)を入力します。

英数記号(0～9、a～z、A～Z、記号)で8～63桁、または16進数(0～9、a～f、A～F)で64桁を入力してください。

ここで設定していただいた暗号化キーを、本機器と通信する無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)の無線設定の際に入力します。

暗号化キー更新間隔(分)

暗号化キーの更新間隔(分)を入力します。WPAでは、暗号化キーは一定期間ごとに自動的に更新されて、より安全な状態を保ちます。入力できる値は、0(更新なし)、1～1440分です。

無線LAN端末(子機)の接続制限

無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)から本機器への接続を制限する設定を行います。

ESS-IDステルス機能(SSIDの隠蔽)

無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)から無線LANアクセスポイント(親機)を検索したときに、本機器のネットワーク名(SSID)が見えないようにする場合は、チェックをします。

あらかじめ本機器のネットワーク名(SSID)を知っている無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)以外からの本機器への接続を制限することができますので、悪意のある第三者に本機器を利用される可能性を低くすることができます。

MACアドレスフィルタリング機能

あらかじめ本機器に登録したMACアドレスを持つ無線LAN端末(パソコン・ゲーム機など)以外から、本機器への無線LAN接続を制限する場合はチェックをします。

登録されている無線LAN端末以外からの本機器への接続を制限することができますので、悪意のある第三者に本機器を利用される可能性を低くすることができます。

MACアドレスフィルタリング機能を使用する場合は、別途「MACアドレスフィルタリング」画面で無線LAN端末(パソコン・ゲーム機・プリンターなど)のMACアドレスを登録しておく必要があります。

※MACアドレスとは、ネットワーク機器を識別するために割り振られる固有のアドレスです。

拡張設定

より高度な設定を行います。

拡張設定を行う場合は、「高度な設定を表示」のボタンをクリックしてください。

送信出力

無線LANの送信出力を選択します。送信出力を低く設定すると、ほかのネットワークとの電波干渉を回避できることがありますが、無線LAN端末(パソコン・ゲーム機・プリンターなど)との距離がある場合などは、無線LAN通信が不安定になる場合があります。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

無線優先制御機能

無線LAN通信の優先制御機能を有効にします。WMM(Wi-Fi Multimedia)方式に、原則として準拠した機能で、特定の通信にのみ優先順位を付けることで、映像や音声のストリーミング時などに、データが途切れないように帯域が確保できるようになっています。

IEEE802.11ac 通信ご利用時には、本機能を必ず「使用する」に設定してください。

DTIM(回)

ビーコン(無線LAN接続のために本機器から一定間隔で送信するパケット)に対して、どの程度の間隔でDTIMを含めるかを設定します。

DTIMとは省電力モードによって休止している無線LAN端末(スマートフォン・パソコン・ゲーム機など)に対して、該当の無線LAN端末宛のデータが届いた際に、すぐに受け取れるよう省電力機能を解除する信号です。

通常は、初期値のままで使用してください。入力できる値は、1～10回です。

プライマリSSID/セカンダリSSIDで共通の設定となります。

無線LAN設定

MACアドレスフィルタリングエントリー覧

接続を許可するMACアドレスエントリ

MACアドレスフィルタリングを使用する際に、接続を許可する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）のMACアドレスを一覧で表示します。
MACアドレスとは、ネットワーク機器を識別するために割り振られる固有のアドレスです。
MACアドレスフィルタリングを設定される際は、あらかじめ登録したい無線LAN端末のMACアドレスをご確認ください。

MACアドレス

MACアドレスフィルタリングを使用する際に、接続を許可する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）のMACアドレスを一覧で表示します。
MACアドレスとは、ネットワーク機器を識別するために割り振られる固有のアドレスです。

編集

指定したMACアドレスを編集します。

削除

指定したMACアドレスを削除します。

MACアドレスフィルタリングエントリ追加／編集

接続を許可するMACアドレスエントリ追加／編集

MACアドレスフィルタリングを使用する際に、接続を許可する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）のMACアドレスを追加します。

指定方法

追加する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）のMACアドレスの指定方法を選択します。

「手動設定」では「MACアドレス」欄に無線接続を許可する無線LAN端末のMACアドレスを入力します。

「選択設定」では、「MACアドレス」の（アクセス履歴）から無線接続を許可する無線LAN端末のMACアドレスを選択して設定します。

MACアドレス

MACアドレスフィルタリングを使用する際に、接続を許可する無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）のMACアドレスを入力します。

［指定方法］が「手動設定」の場合は、［xx:xx:xx:xx:xx:xx］形式で直接入力してください。

「選択設定」の場合は、「アクセス履歴」の中から設定する無線LAN端末のMACアドレスを選択してください。

無線LAN設定

WPS設定

WPS設定

本機器のWPS設定に関する設定を行います。
WPSとは、WPS対応機器と組み合わせて無線LANの設定や暗号化を簡単に行うことができる機能です。
WPSにはPIN方式とプッシュボタン方式があり、本機器はどちらの方式にも対応しています。
プッシュボタン方式で設定する場合は、「WPS設定（プッシュボタン方式）」をご覧ください。

PIN方式

WPSでPIN方式を使用する場合は、チェックをします。
PIN方式とは、本機器または無線LAN子機（パソコン・ゲーム機など）のPINコードを入力することで無線LAN設定を行う方式です。

無線LAN端末のPINコード

「PIN方式」で「使用する」にチェックを入れた場合に設定できます。
本機器に現在設定されている無線LAN設定（暗号化方式など）を無線LAN端末（パソコン・ゲーム機など）に設定する場合は、該当の無線LAN端末の無線LAN子機のPINコードを入力します。

無線LANアクセスポイントのPINコード

「PIN方式」で「使用する」にチェックを入れた場合に設定できます。
本機器のPINコードを生成し、表示します。
「再生成」をクリックすると、本機器のPINコードを再生成します。
「初期値に戻す」をクリックすると、本機器のPINコードを出荷時の状態に戻します。出荷時のPINコードは、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルに記載されています。

WPSの状態

「PIN方式」で「使用する」にチェックを入れた場合に設定できます。
WPSの状態を表示します。PIN方式により無線LAN端末側（パソコン・ゲーム機など）の無線LAN設定（暗号化方式など）に合わせて本機器の無線LAN設定を行う場合は、「Configured」のチェックを外してください。
チェックを外して無効にすると、意図せず本機器の無線LAN設定が上書きされる場合があります。設定済みのほかの無線LAN端末から無線接続ができなくなることもありますので、通常「Configured」のチェックを入れておくことをおすすめします。

詳細設定

LAN側設定

IPアドレス/ネットマスク

本機器のLAN側のIPアドレス/ネットマスクに関する設定を行います。
本設定項目を変更しなくても、インターネット接続は問題なく行えます。通常は初期値のままでご利用ください。
設定に間違いがあると、インターネットへ接続できなくなります。

IPアドレス/ネットマスク(ビット指定)

本機器のLAN側のIPアドレスとネットマスクを入力します。通常、変更する必要はありません。変更する場合、ネットマスクは、ビット数形式で入力してください。入力できる値は、24～30です。たとえば、「255.255.255.0」形式のネットマスクは「24」と入力します。

注意

本項目の変更によって、通信条件が即時に変わり、通信が途切れる場合があります。このような場合は、接続する端末と本機器の設定をあわせて、再接続してください。

DHCPサーバ

本機器のDHCPサーバに関する設定を行います。
DHCPサーバ機能とは、本機器に接続しているパソコンなどの端末が起動した際、IPアドレスなど、ネットワークの利用に必要な設定情報を、本機器から自動的に割り当てる機能です。

この機能により、各端末で詳細な設定を行わなくても、本機器を利用してインターネットへ接続することができます。

DHCPサーバ機能

本機器と接続する端末（パソコンなど）に自動でIPアドレスを割り当てたい場合は、チェックをします。

通常は「使用する」にチェックを入れてください。

リースタイム（時間）

DHCPサーバ機能で本機器と接続する端末（パソコンなど）に割り当てるIPアドレスの有効時間を入力します。入力できる値は、0（無制限）、1～72（時間）です。

アドレス割当パターン

本機器と接続する端末（パソコンなど）に割り当てるIPアドレスの範囲を自動で設定するか手動で設定するかを選択します。

「自動設定」を選択した場合、本機器LAN側のIPアドレスの次のIPアドレスから割当数分のIPアドレスを確保します。「手動設定」を選択した場合は、［割当先頭アドレス］を設定してください。

通常は「自動設定」のままでご利用ください。

割当先頭アドレス

「アドレス割当パターン」で「手動設定」を選択した場合に入力します。

本機器と接続する端末（パソコンなど）に割り当てるIPアドレスの先頭アドレスを入力します。

割当数

本機器と接続する端末（パソコンなど）に割り当てるIPアドレスの割当数を入力します。入力できる値は、1～32です。

WINSサーバアドレス

本機器と接続する端末（パソコンなど）に通知するWINSサーバアドレスを入力します。

通常入力する必要はありません。

詳細設定

DHCP除外設定 エントリー覧

割当範囲

本機器のDHCPサーバ機能で端末（パソコンなど）に割り当てるIPアドレスの範囲を表示します。
BBIQ光電話無線ルータ設定画面のトップページ＞詳細設定＞LAN側設定の「DHCPサーバ」－「DHCPサーバ機能」の設定を「使用する」、「アドレス割当パターン」の設定を「手動設定」に設定した場合に、本項目の設定が行えます。

割当先頭アドレス
本機器と接続する端末（パソコンなど）に割り当てるIPアドレスの先頭アドレスを表示します。
BBIQ光電話無線ルータ設定画面のトップページ＞詳細設定＞LAN側設定の「DHCPサーバ」－「割当先頭アドレス」で設定したIPアドレスです。

割当数
本機器と接続する端末（パソコンなど）に割り当てるIPアドレスの割当数を表示します。

DHCP除外エントリ

DHCPで自動的にIPアドレスを割り当てる際、割当を行わない（除外する）IPアドレスの範囲を表示します。

先頭アドレス
DHCPで自動的にIPアドレスを割り当てる際、本機器と接続する端末（パソコンなど）に割当を行わない（除外したい）IPアドレス範囲の先頭アドレスを表示します。

除外数
DHCPで自動的にIPアドレスを割り当てる際、本機器と接続する端末（パソコンなど）に割当を行わないIPアドレス数を表示します。

編集
指定したエントリを編集します。

削除
指定したエントリを削除します。

詳細設定

DHCP除外設定 エントリ追加／編集

DHCP除外エントリ追加／編集

DHCPで割当を行わないIPアドレスの範囲を設定します。

先頭アドレス

DHCPで自動的にIPアドレスを割り当てる際、本機器と接続する端末（パソコンなど）に割当を行わない（除外したい）IPアドレス範囲の先頭アドレスを入力します。

「先頭アドレス」で指定したIPアドレスから、「除外数」で指定した数分、DHCPサーバは割当範囲から除外を行います。除外エントリは2エントリの指定が可能です。

除外数

DHCPで自動的にIPアドレスを割り当てる際、本機器と接続する端末（パソコンなど）に割当を行わないIPアドレス数を入力します。入力できる値は、1～255です。

詳細設定

DHCP固定割当設定 エントリー覧

DHCP固定割当設定エントリ

DHCPで自動的にIPアドレスを割り当てる際、あらかじめ登録したMACアドレスの端末（パソコンなど）に任意のIPアドレスを固定で割り当てる設定の一覧を表示します。

MACアドレス
　固定のIPアドレスを割り当てる端末（パソコンなど）のMACアドレスを表示します。

IPアドレス
　指定したMACアドレスに割り当てるIPアドレスを表示します。

編集
　指定したエントリを編集します。

削除
　指定したエントリを削除します。

詳細設定

DHCP固定割当設定 エントリ追加／編集

DHCP固定割当設定エントリ追加／編集

登録したMACアドレスの端末（パソコンなど）に任意のIPアドレスを固定で割り当てる設定を行います。

MACアドレス

登録したMACアドレスの端末（パソコンなど）に任意のIPアドレスを固定で割り当てる場合は、割り当てたい端末のMACアドレスを入力します。

「MACアドレス」で指定した端末に「IPアドレス」で指定したIPアドレスを割り当てます。MACアドレスは、「xx:xx:xx:xx:xx:xx」形式で入力してください。

IPアドレス

特定の端末に割り当てたい固定IPアドレスを入力してください。

「MACアドレス」で指定した端末に「IPアドレス」で指定したIPアドレスを割り当てます。

※「DHCP除外範囲」に設定されているIPアドレスの場合は、無効となります。

詳細設定

パケットフィルタ設定 エントリー覧

対象インタフェースを選択

パケットフィルタを設定するインタフェースを指定します。WANとLANが選択できます。ここで指定したインタフェースの一覧が表示されます。

パケットフィルタエントリ

パケットフィルタリング設定の一覧を、接続先の設定ごとに表示します。

パケットフィルタリングとは、本機器を通過するパケット(適切なサイズに分割されたデータ)を、送信元や送信先、IPアドレス、ポート番号、通信方向などの情報を元に、通過させるか遮断するかを決定する機能のことです。

この機能を利用することで外部からの不正なアクセスを遮断することができるため、セキュリティを向上させることができます。

本機器では、フィルタ設定のパターンを最大50個まで設定できます。

本機器では、デフォルトで18エントリーのフィルタが設定されています。それぞれ以下の目的のためのフィルタとなっていますので、変更しないままの使用を強く推奨します。

- 優先度1～6・・・NetBIOSやファイル共用などによる意図しないWAN側への情報漏洩防止
- 優先度7～18・・・既知のアタック対策

種別

フィルタ条件に一致したパケットの処理方法を表示します。

方向

送信・受信のどちらの通信でフィルタが適用されるかを表示します。

「in」は受信に、「out」は送信に対してフィルタが設定されています。

プロトコル

フィルタ対象とするIPプロトコルの種別を表示します。

送信元

フィルタ対象とするパケットの送信元IPアドレスを表示します。すべてのIPアドレスからのパケットを対象とする場合は「any」、本機器からのパケットを対象とする場合は「localhost」と表示します。

送信元ポート

フィルタ対象とするパケットの送信元ポート番号を表示します。すべてのポート番号のパケットを対象とする場合は「any」と表示します。

宛先

フィルタ対象とするパケットの宛先IPアドレスを表示します。すべてのIPアドレスへのパケットを対象とする場合は「any」、本機器へのパケットを対象とする場合は「localhost」と表示します

宛先ポート

フィルタ対象とするパケットの宛先ポート番号を表示します。すべてのポート番号のパケットを対象とする場合は「any」と表示します。

優先度

フィルタ設定の優先度を表示します。フィルタ設定が複数ある場合は、数字の小さいフィルタから優先的に適用します。

編集

指定したフィルタエントリを編集します。

削除

指定したフィルタエントリを削除します。

詳細設定

パケットフィルタ設定 エントリ追加／編集

パケットフィルタエントリ追加／編集

フィルタエントリの設定を行います。

種別

フィルタ条件に一致したパケットの扱いを選択します。
データを通過させる場合は「通過」、遮断する場合は「廃棄」にチェックを入れます。

方向

送信・受信のどちらの通信でフィルタが適用されるかを選択します。
「in」は受信に、「out」は送信に対してフィルタを設定します。

プロトコル

フィルタ対象とするIPプロトコルの種別を選択します。

「その他」を選択した場合は、IPプロトコル番号を入力してください。

特定の「TCP FLAG」や「ICMP MESSAGE」を指定することもできます。

送信元IPアドレス

フィルタ対象とするパケットの送信元IPアドレスを入力します。すべてのIPアドレスからのパケットを対象とする場合は「any」、本機器からのパケットを対象とする場合は「localhost」を選択してください。

特定のIPアドレスのみを対象とする場合は、IPアドレスをご入力ください。

送信元ポート番号

フィルタ対象とするパケットの送信元ポート番号を入力します。すべてのポート番号のパケットを対象とする場合は「any」にチェックを入れてください。

宛先IPアドレス

フィルタ対象とするパケットの宛先IPアドレスを入力します。すべてのIPアドレスへのパケットを対象とする場合は「any」、本機器へのパケットを対象とする場合は「localhost」を選択してください。特定のIPアドレスのみを対象とする場合は、IPアドレスをご入力ください。

宛先ポート番号

フィルタ対象とするパケットの宛先ポート番号を入力します。すべてのポート番号のパケットを対象とする場合は「any」にチェックしてください。

優先度

フィルタ設定の優先度を入力します。フィルタ設定が複数ある場合は、数字の小さいフィルタから優先的に適用します。入力できる値は、1～50です。

詳細設定

ポートマッピング設定 エントリー覧

NATエントリ

ポートマッピング設定の一覧を接続先の設定ごとに表示します。
ポートマッピング機能は、一般的にポートの開放と呼ばれている機能で、本機器を利用してインターネットへ接続している端末（パソコン）などに、Webカメラなどを設定して外部からアクセスできるようにしたり、UPnPに対応していないネットワークゲームを利用する場合などに設定します。

LAN側ホスト
ポートマッピングを適用する端末（パソコンなど）のIPアドレスを表示します。

プロトコル
ポートマッピングの対象とするプロトコルを表示します。

ポート番号
ポートマッピングの対象とするポート番号を表示します。

優先度
ポートマッピング設定の優先度を表示します。ポートマッピング設定が複数ある場合は、数字の小さい設定を優先的に適用します。

編集
指定したエントリを編集します。

削除
指定したエントリを削除します。

詳細設定

ポートマッピング設定 エントリ追加／編集

NATエントリ追加／編集

ポートマッピング設定の設定を行います。

LAN側ホスト
　ポートマッピングを適用する端末（パソコンなど）のIPアドレスを入力します。

プロトコル
　ポートマッピングの対象とするプロトコルを選択します。
　「その他」を選択した場合は、「プロトコル番号」を入力してください。
　開放するプロトコルは、利用したいサービスの提供元へご確認ください。

ポート番号
　ポートマッピングの対象とするポート番号を入力します。
　「プロトコル」で「TCP」/「UDP」を選択し、すべてのポート番号を対象とする場合は、「any」にチェックをしてください。
　開放するポート番号は、利用したいサービスの提供元へご確認ください。

優先度
　ポートマッピング設定の優先度を入力します。
　ポートマッピング設定が複数ある場合は、数字の小さい設定を優先的に適用します。入力できる値は、1～50です。

詳細設定

その他設定

インタフェース設定

インタフェースに関する設定を行います。

LAN側ジャンボフレーム透過機能

LAN側ジャンボフレーム透過機能

LAN側ジャンボフレーム透過機能を使用する場合は、チェックをします。この機能を使用すると、本機器に接続された端末（パソコンなど）間でジャンボフレームの転送が利用可能となります。

ジャンボフレームとは、ネットワーク上でやりとりされるデータの分割サイズを大きくし、一度に転送できるデータを増やす機能のことです。利用することで、無駄な処理を削減し、本機器に接続された端末間での通信速度を高速化することができます。

※利用するためには、端末のLAN機器など、他のネットワーク機器もすべてジャンボフレームに対応している必要があります。また、合わせて端末側の設定を変更する必要があります。

※無線通信には対応していません。

※ご利用の環境によっては、インターネット接続ができなくなる場合があります。

通常は初期値の「使用しない」のままでご利用ください。

LAN側Pause機能

LAN側Pause機能を使用する場合は、チェックを入れてください。

本機器に接続された端末（パソコンなど）間でフロー制御が利用可能となります。

セキュリティ設定

ルータのセキュリティ機能に関する設定を行います。

セキュリティ保護機能

セキュリティ保護機能を使用する場合は、チェックをします。セキュリティ保護機能を使用すると既知の外部からの攻撃や不正アクセスを検出し、その不正パケットを廃棄します。

検出可能な不正アクセスは、「LAND攻撃」「Smurf攻撃」「IP Spoofing攻撃」です。

セキュリティのため、通常は「使用する」のままご利用ください。

NAPT/SPI設定

NAPT（IPマスカレード）機能に関する設定を行います。
この機能を利用することにより、本機器に接続した複数の端末（パソコンなど）から同時にインターネットへの接続が可能となります。

TCPタイマ（秒）

NAPT機能を使用する際のIPアドレス / ポート番号の動的変換テーブルの有効保持時間（秒）を入力します。

NAPTテーブルが枯渇して通信ができなくなるアプリケーションを利用する場合は、本タイマを短めに設定すると解決できることがあります。入力できる値は、300～432000（秒）です。

UDPタイマ(秒)

NAPT機能を使用する際のIPアドレス / ポート番号の動的変換テーブルの有効保持時間（秒）を入力します。NAPTテーブルが枯渇して通信ができなくなるアプリケーションを利用する場合は、本タイマを短めに設定すると解決できることがあります。
入力できる値は、30～3600（秒）です。

VPN設定

VPNパススルー機能に関する設定を行います。

本機器に接続された端末（パソコンなど）と、外部のネットワークをVPNを構成して通信したい場合に設定します。

例）自宅からインターネット経由で会社のネットワークへアクセスする

IPsecパススルー機能

IPsecパススルー機能を使用する場合は、チェックをします。

本機器に接続された端末（パソコンなど）と、外部のネットワークをVPNを構成して通信したい場合は、「使用する」にチェックを入れます。

例）自宅からインターネット経由で会社のネットワークへアクセスする

PPTPパススルー機能

PPTPパススルー機能を使用する場合は、チェックをします。

本機器に接続された端末（パソコンなど）と、外部のネットワークをVPNを構成して通信したい場合は、「使用する」にチェックを入れます。

例）自宅からインターネット経由で会社のネットワークへアクセスする

UPnP設定

UPnP（ユニバーサル・プラグアンドプレイ）機能に関する設定を行います。

UPnPとは、パソコンや周辺機器、家電製品などの機器をネットワークを通じて接続し、相互に機能を提供し合うための仕組みで

UPnP機能

UPnP（ユニバーサル・プラグアンドプレイ）機能を使用する場合は、チェックをします。

UPnPとは、パソコンや周辺機器、家電製品などの機器をネットワークを通じて接続し、相互に機能を提供し合うための仕組みです。

この機能を利用することにより、本機器に接続した端末（パソコンなど）から、オンラインゲームなどを特別な設定をすることなく利用することができます。

最大10台までの端末でUPnP機能が利用可能となります。

DMZホスト設定

DMZホスト機能によって外部に公開する端末（ホスト）の設定を行います。

DMZホスト機能とは、本機器に接続している端末（パソコンなど）のうち、外部（インターネット）からのアクセスを可能とする端末を指定する機能のことです。

Webサーバなど、各種サーバを外部に公開する場合などに本機能を利用します。

※本機能を利用することで、セキュリティ機能によって、通常は受け付けない外部からのデータを受け取るようになります。

そのため、インターネットに直接接続している場合と近い状態になり、セキュリティは低下しますので、ご利用の際は十分なセキュリティ対策を行っていただくことをおすすめします。通常は利用する必要はありません。

DMZホスト機能

DMZホスト機能を使用する場合は、チェックをします。NAPT機能を使用する場合のみ、有効となります。

DMZホスト機能とは、本機器に接続している端末（パソコンなど）のうち、外部（インターネット）からのアクセスを可能とする端末を指定する機能のことです。

Webサーバなど、各種サーバを外部に公開する場合などに本機能を利用します。

※本機能を利用することで、セキュリティ機能によって、通常は受け付けない外部からのデータを受け取るようになります。

そのため、インターネットに直接接続している場合と近い状態になり、セキュリティは低下しますので、ご利用の際は十分なセキュリティ対策を行っていただくことをおすすめします。

通常は利用する必要はありません。

DMZホストのIPアドレス

DMZホスト機能を利用して外部に公開したい端末のIPアドレスを入力します。

本機器のLAN側の設定で指定したネットワークアドレス範囲内のIPアドレスを入力してください。

DMZホストとして設定したIPアドレスには、外部（インターネット）からのすべてのアクセスが、ポート番号が無変換のまま転送されます。

セキュリティ保護のため、LAN側のパケットフィルタ設定を使用して、ここで入力したIPアドレス宛の通信を、必要なポート番号のみに制限する設定を行うことをおすすめします。

メンテナンス

管理者パスワードの変更

管理者パスワードの変更

管理者パスワードの変更を行います。

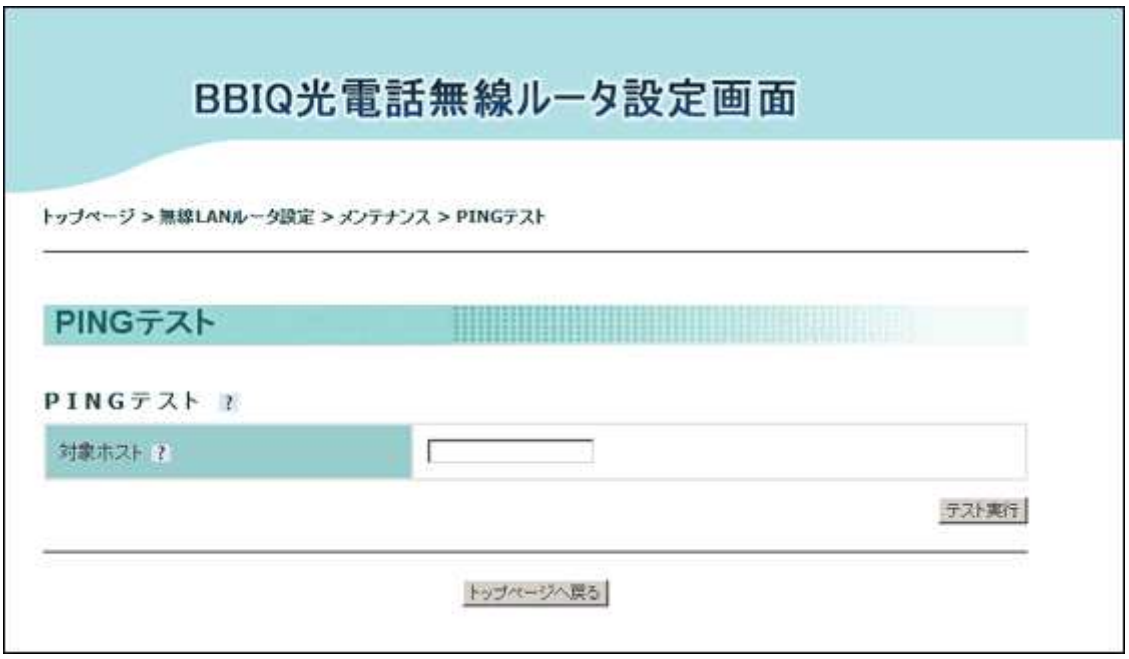
現在のパスワード
現在のパスワードを入力します。
本設定画面にログインする際に使用した、管理者用パスワードをご入力ください。

新しいパスワード
新しいパスワードを入力します。
半角英数字、-（ハイフン）、_（アンダースコア）を使用して64文字以内で入力してください。

新しいパスワード再入力
確認のため、新しいパスワードを再入力します。

メンテナンス

PINGテスト



PINGテスト

ネットワークの通信確認を行います。

対象ホスト
　対象ホストを入力します。PINGテストの対象となるホストのIPアドレスを指定します。

メンテナンス

再起動

再起動

本機器の再起動を行います。現在の設定を保存してから再起動してください。設定を変更した場合は、再起動を行う前に設定を保存しないと設定内容が失われます。

メンテナンス

設定値の保存&復元

設定値の保存

本機器の設定内容をファイルに保存します。
設定内容をパソコンに保存しておくことで、後から設定内容を復元することができます。
ただし、保存するのは初期値からの変更部分のみです。本機器固有の初期情報は保存しませんので、保存した設定値を本機器以外で復元することはできません。

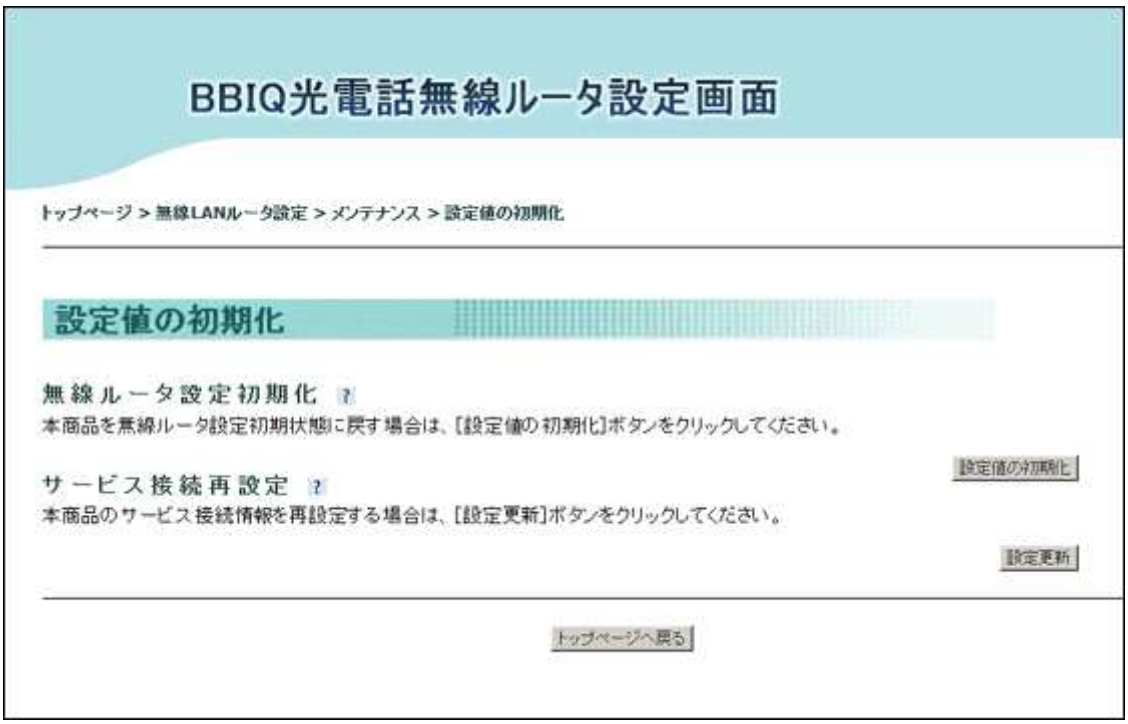
設定値の復元

設定内容を保存したファイルを復元して、本機器に設定します。本機器以外で保存した設定値を復元することはできません。

設定ファイル
　本機器の設定内容が保存されたファイルを指定します。

メンテナンス

設定値の初期化



無線ルータ設定初期化

本機器の設定内容を初期状態に戻します。
本機器がうまく動作しない場合など、本機器を初期化してはじめから設定し直すことをおすすめします。

サービス接続再設定

本機器のサービス接続設定を初期化し、サービス接続に関する設定を再度自動設定します。
再設定が必要な場合は、当社からご案内します。

現在の状態

BBIQ光電話無線ルータ設定画面

トップページ > 無線LANルータ設定 > 情報 > 現在の状態

現在の状態

装置情報

装置名	iA201WL4
ファームウェアバージョン	FA[redacted]
製造番号	[redacted]
起動時間	Thu May 22 14:49:43 2014
現在時間	Thu May 22 16:18:19 2014
MACアドレス(WAN)	[redacted]
MACアドレス(LAN)	[redacted]

無線情報(BBIQRT-[redacted]-g)

無線動作モード	2.4GHz
使用チャネル	1
ネットワーク名(SSID)	BBIQRT-[redacted]-g
MACアドレス(無線)	[redacted]
ネットワーク分離機能	未使用

無線情報(BBIQRT-[redacted]-gw)

無線動作モード	2.4GHz
使用チャネル	1
ネットワーク名(SSID)	BBIQRT-[redacted]-gw
MACアドレス(無線)	[redacted]
ネットワーク分離機能	使用

無線情報(BBIQRT-[redacted]-a)

無線動作モード	5GHz
使用チャネル	36 40 44* 48
ネットワーク名(SSID)	BBIQRT-[redacted]-a
MACアドレス(無線)	[redacted]
ネットワーク分離機能	未使用

無線情報(BBIQRT-[redacted]-aw)

無線動作モード	5GHz
使用チャネル	36 40 44* 48
ネットワーク名(SSID)	BBIQRT-[redacted]-aw
MACアドレス(無線)	[redacted]

装置情報
本機器の装置情報や設定内容を表示します。

装置名
本機器の装置名を表示します。

ファームウェアバージョン
本機器で使用するファームウェアのバージョンを表示します。

製造番号
本機器の製造番号を表示します。

起動時間
本機器の起動時間を表示します。

現在時間
本機器の現在時間を表示します。

MACアドレス(WAN)
本機器で使用するWAN側のMACアドレスを表示します。

MACアドレス(LAN)
本機器で使用するLAN側のMACアドレスを表示します。

無線情報(BBIQRT-xxxxxxx-g)
2.4GHz帯無線LAN通信(IEEE 802.11b / 11g / 11n)のプライマリSSIDの無線情報を表示します。

無線動作モード
無線LANで使用する動作モードを表示します。

使用チャネル
無線LANで使用するチャネルを表示します。

ネットワーク名(SSID)
無線LANのネットワーク名(SSID)を表示します。

MACアドレス（無線）
本機器で使用する無線LAN側のMACアドレスを表示します。

ネットワーク分離機能
無線LANのネットワーク分離機能の使用状態を表示します。

無線情報(BBIQRT-xxxxxxx-gw)
2.4GHz帯無線LAN通信(IEEE 802.11b / 11g / 11n)のセカンダリSSIDの無線情報を表示します。

無線動作モード
無線LANで使用する動作モードを表示します。

使用チャネル
無線LANで使用するチャネルを表示します。

ネットワーク名(SSID)
無線LANのネットワーク名(SSID)を表示します。

MACアドレス（無線）
本機器で使用する無線LAN側のMACアドレスを表示します。

ネットワーク分離機能
無線LANのネットワーク分離機能の使用状態を表示します。

無線情報(BBIQRT-xxxxxxx-a)
5GHz帯無線LAN通信(IEEE 802.11a / 11n / 11ac)のプライマリSSIDの無線情報を表示します。

無線動作モード
　無線LANで使用する動作モードを表示します。

使用チャネル
　無線LANで使用するチャネルを表示します。

ネットワーク名(SSID)
　無線LANのネットワーク名(SSID)を表示します。

MACアドレス（無線）
　本機器で使用する無線LAN側のMACアドレスを表示します。

ネットワーク分離機能
　無線LANのネットワーク分離機能の使用状態を表示します。

無線情報(BBIQRT-xxxxxxx-aw)

5GHz帯無線LAN通信(IEEE 802.11a / 11n / 11ac)のセカンダリSSIDの無線情報を表示します。

無線動作モード
　無線LANで使用する動作モードを表示します。

使用チャネル
　無線LANで使用するチャネルを表示します。

ネットワーク名(SSID)
　無線LANのネットワーク名(SSID)を表示します。

MACアドレス（無線）
　本機器で使用する無線LAN側のMACアドレスを表示します。

ネットワーク分離機能
　無線LANのネットワーク分離機能の使用状態を表示します。

接続状態

本機器の接続状態を表示します。

動作モード
　現在の動作モードを表示します。

WAN[接続先]
　WANの接続状態を表示します。

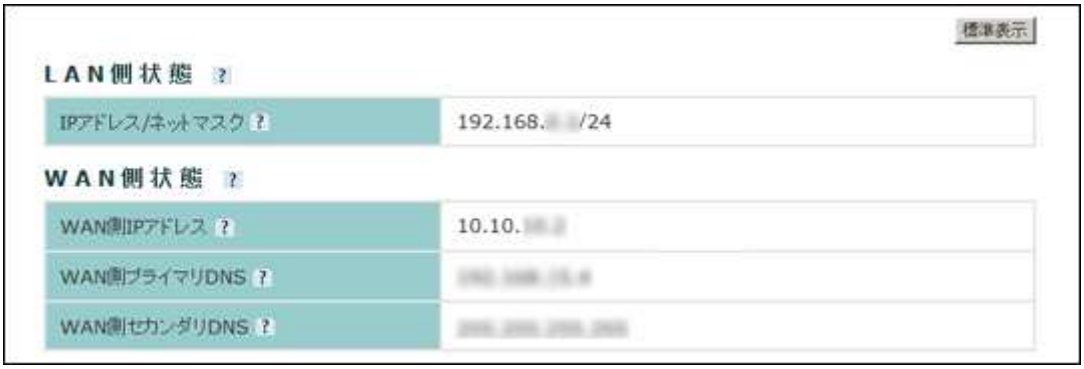
LINK状態
　接続完了時の速度、状態を表示します。

- down
  リンクダウン状態であることを示します。
- auto
  オートネゴシエーション有効であることを示します。
- 10M / 100M / 1000M
  現在リンクしているetherポートの通信速度(10Mbps / 100Mbps / 1000Mbps)を示します。
- Full/Half
  現在リンクしているFull（全二重） / Half（半二重）の状態を示します。
- MDI / MDI-X
  現在リンクしているMDIの種別を示します。

LAN側状態

本機器のLAN側の状態を表示します。

LAN側の状態を表示する場合は、「拡張表示」のボタンをクリックしてください。

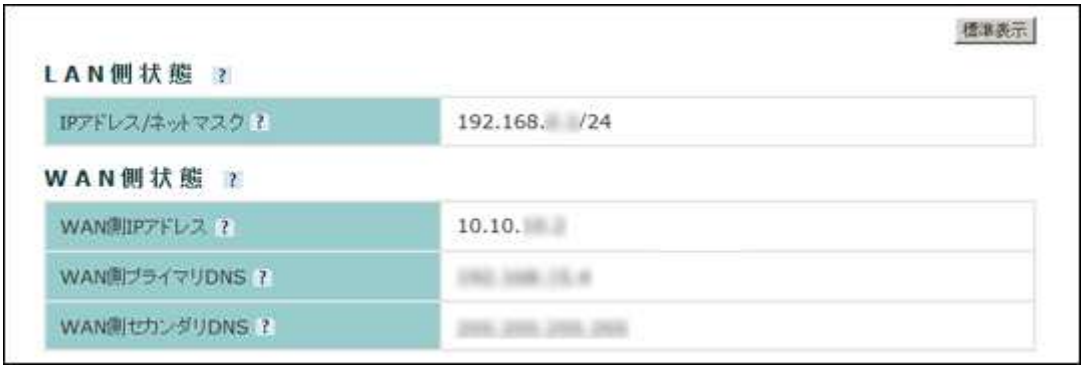


IPアドレス / ネットマスク

本機器が使用するLAN側のIPアドレス / ネットマスクを表示します。

WAN側状態

本機器のWANの状態を表示します。
WAN側の状態を表示する場合は、「拡張表示」のボタンをクリックしてください。



WAN側IPアドレス

使用するWAN側のIPアドレスを表示します。

WAN側プライマリDNS

使用するWAN側のプライマリ（優先）DNSサーバを表示します。

WAN側セカンダリDNS

使用するWAN側のセカンダリ（予備）DNSサーバを表示します。

情報

UPnPの状態

現在UPnP利用中の端末リスト

現在UPnPを利用中の端末（パソコンなど）のIPアドレスとポート番号を表示します。

IPアドレス
　現在UPnPを利用中の端末（パソコンなど）のIPアドレスを表示します。

インタフェース
　各端末（パソコンなど）がUPnPの通信に使用している接続先を表示します。

ポート番号
　各端末（パソコンなど）がUPnPで使用しているポート番号を表示します。

光電話

基本設定

BBIQ光電話番号1

本機器の電話1ポートの電話番号およびサービス状態を表示します。

電話番号

本機器の電話1ポートにご契約がある場合、電話番号を表示します。

状態

本機器の電話1ポートのサービス状態を表示します。

- ご契約なし
- 一時的にご利用不可
- ご利用可能

BBIQ光電話番号2

本機器の電話2ポートの電話番号およびサービス状態を表示します。

電話番号

本機器の電話2ポートにご契約がある場合、電話番号を表示します。

状態

本機器の電話2ポートのサービス状態を表示します。

- ご契約なし
- 一時的にご利用不可
- ご利用可能

こんなときは・・・

WPS設定には、プッシュボタン方式とPINコード方式があります。

WPS設定（プッシュボタン方式）

「無線設定(WPS)」ボタンを押して設定する方法について説明します。

備考

- 設定の際、本機器と設定する無線LAN端末（パソコン・スマートフォンなど）は近くに置いた状態で設定してください（目安1m程度）。
- WPSで設定を行うには、接続する無線LAN子機もWPSに対応している必要があります。無線LAN子機が無線設定WPS（プッシュボタン方式）をサポートしていない場合は、無線LANセキュリティ情報をパソコンに手入力する方法が利用できます。本機器の側面に貼付された装置情報ラベルに記載している、無線LANセキュリティ情報（SSIDと暗号化キー）を設定してください。
  詳細な操作方法については、無線LAN子機の取扱説明書などを参照してください。
- 本機器で「SSIDステルス機能」を有効にしていると、WPSでの無線設定に失敗します。WPSでの設定時は、機能を無効にしてください。
- WPSで無線LANの設定を行っている間は、すでに本機器に無線で接続している端末からの通信が切断される場合があります。
- 本機器で「MACアドレスフィルタリング」を有効にしている場合、接続する端末の無線LAN子機の「MACアドレス」が登録されていないと、子機によってはWPSでの無線設定ができない場合があります。

Windowsをご利用の場合

Windows 8の場合

【手順】

1. 「スタート」画面から「デスクトップ」をクリックします。
2. 画面右上隅または右下の隅にマウスのカーソルを移動します。
3. 右側にメニューが表示されますので、「設定」をクリックします。
4. 「利用可能」をクリックします。
5. 一覧から本機器のネットワーク名(SSID)をクリックし、「接続」をクリックします。
   ※お届け時のネットワーク名(SSID)は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。
   ※本機器の「WPS設定」・「PIN方式」を「使用しない」に設定している場合は、先に手順6.を行ってから本操作を行ってください。
6. 本機器前面の「無線設定(WPS)」ボタンを押し続け、電源ランプが橙点滅したら指を離します。
7. 本機器の電源ランプが橙点灯になったことを確認します。
   電源ランプは約10秒間橙点灯したあと、緑点灯に戻ります。
   ※接続後以下の画面が表示された場合は、利用する環境にあった設定を選択してください。
   これでWPS設定(Windows 8)の操作は完了です。

注意

無線接続に失敗した場合は、電源ランプが約10秒間赤点灯します。手順1.からやり直しても失敗する場合は、子機の取扱説明書などを参照して、本機器のネットワーク名(SSID)と暗号化キーを設定してください。

Windows 7 / Windows Vistaの場合

【手順】

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
3. 「ネットワークに接続」をクリックします。
4. 一覧から本機器のネットワーク名(SSID)をクリックし、「接続」をクリックします。
   ※お届け時のネットワーク名(SSID)は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。
   ※本機器の「WPS設定」・「PIN方式」を「使用しない」に設定している場合は、先に手順6.を行ってから本操作を行ってください。
5. ネットワークに接続の画面が表示されることを確認します。
   ※Windows Vistaの場合は、「アクセスポイントの構成ボタンを押してください」のメッセージが表示されます。手順6.まで行ったあとに「次へ」をクリックしてください。
6. 本機器前面の「無線設定(WPS)」ボタンを押し続け、電源ランプが橙点滅したら指を離します。
   Windows Vistaの場合は、手順5.で表示された画面で「次へ」をクリックしてください。
7. 本機器の電源ランプが橙点灯になったことを確認します。
   電源ランプは約10秒間橙点灯したあと、緑点灯に戻ります。
   これでWPS設定(Windows 7 / Windows Vista)の操作は完了です。

注意

無線接続に失敗した場合は、電源ランプが約10秒間赤点灯します。手順1.からやり直しても失敗する場合は、子機の取扱説明書などを参照して、本機器のネットワーク名(SSID)と暗号化キーを設定してください。

Androidをご利用の場合

【手順】

1. 画面トップにある「設定」をタップします。設定画面が表示されます。
2. 接続したいアクセスポイントをタップします。
   ※WPSをサポートしているアクセスポイントの場合は（WPS使用可）という表示がされます。
3. 画面に表示される「設定方法」をタップします。
   ※WPSをサポートしていないAndroid端末の場合は「設定方法」が表示されません。
4. 「WPS プッシュボタン方式」をタップします。
5. 「接続」をタップします。
6. 「WPSを実行中です。APのボタンを押してください。」のメッセージが表示されたら、本機器前面の「無線設定(WPS)」ボタンを5秒以上長押しします。
7. 「WPSは完了しました」のメッセージが表示されたら接続完了です。

WPS設定（PINコード方式）

WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、Wi-Fi Allianceが策定した無線LANの接続設定を簡単に行うための規格です。本機器は、WPSに対応した無線LANの自動設定を行うことができます。
※設定するには、無線LAN子機もWPSに対応している必要があります。

注意

- BBIQ 光電話無線ルータ設定画面で「MACアドレスフィルタリング」が「使用する」になっている場合、無線LAN子機のMACアドレスが登録されていないと、WPS機能での設定に失敗します。BBIQ 光電話無線ルータ設定画面の設定を確認してください。
- BBIQ 光電話無線ルータ設定画面で「ESS-IDステルス機能（SSIDの隠蔽）」が「使用する」になっていると、WPS機能での設定に失敗します。BBIQ 光電話無線ルータ設定画面の設定を確認してください。
- 暗号化設定が152bitWEPではご利用になれません。WPS機能での設定中は他の無線接続はいったん切断されることがあります。

備考

- 周囲にある本機器以外の無線LANアクセスポイントでWPS「PIN方式」を実行すると、本機器がWPS信号を検知して、電源ランプ表示が変化することがあります。
- 接続する無線LAN子機がない状態で「WPS設定」を行った場合、2分間で自動的にキャンセルされます。
- WPS機能での設定中は他の無線接続はいったん切断されることがあります。
- 本機器では、WPS機能での設定の際、2.4GHz帯または5GHz帯のどちらにも接続することができます。
- 2.4GHz/5GHz対応の無線LAN内蔵パソコンでWindows 8 / Windows 7をご利用の場合は、2.4GHzまたは5GHzのどちらか一方でのみWPSが行えます。選択した帯域でWPSが実行できない場合は、パソコンを再起動し、再度実行してください。

設定方法

PIN方式での設定方法について説明します。

「無線LANルータ設定」の「無線LAN設定」-「WPS設定」で設定します。

備考

- PIN方式を使って、無線LAN子機の設定を本機器に設定すると、本機器の無線LAN設定が変更になり、設定済みの他の無線LAN子機から接続できなくなる場合があります。
- Windows 8 / Windows 7をご利用の場合、本機器でプライマリSSIDの 暗号化モードが「暗号化無効」以外に設定されていると、WPS機能での設定に失敗する場合があります。

本機器の無線LAN設定を無線LAN子機に設定する

ご利用になる無線LAN子機のドライバや設定ツールが必要な場合は、インストールを済ませておいてください。

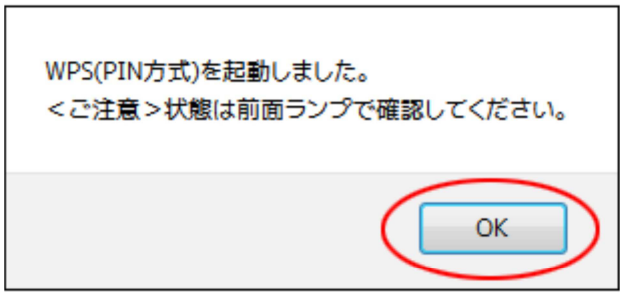
【手順】

1. 無線LAN子機を接続したパソコンでBBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開く場合は、いったんETHERNETケーブルでパソコンと本機器を接続します。
   ※他のパソコンでBBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開く場合は、手順2に進みます。
2. BBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開きます。
3. 左のメニューから「無線LAN設定」をクリックします。
4. 左のメニューから「WPS設定」をクリックします。
5. 「PIN方式」の「使用する」をチェックします。
6. 「WPSの状態」の「Configured」をチェックします。

7. 「無線LAN端末のPINコード」に無線LAN子機のPINコードを入力します。
※無線LAN子機のPINコードは、無線LAN子機に添付の取扱説明書などを参照してください。

8. 「WPS（PIN方式）」をクリックします。

9. 「OK」をクリックします。
※本機器の電源ランプが橙点滅します。



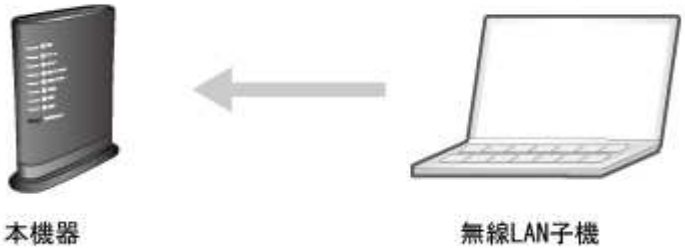
10. 無線LAN子機を接続したパソコンで上記の設定をした場合は、パソコンからETHERNETケーブルを取り外して、10秒待ちます。
※他のパソコンで設定した場合は、手順10に進みます。

11. 無線LAN子機側でWPS機能を起動します。
※起動方法については、無線LAN子機に添付の取扱説明書などを参照してください。
※無線設定が完了すると、本機器の電源ランプが橙点灯（約10秒間）します。

備考

「WPSの状態」の「Configured」の設定を外した場合、予期せず無線LAN設定が上書きされる場合があります。セキュリティの観点から、「Configured」に設定をすることをお勧めします。

無線LAN子機の無線LAN設定を本機器に設定する



ご利用になる無線LAN子機のドライバや設定ツールが必要な場合は、インストールを済ませておいてください。

【手順】

1. 無線LAN 子機を接続したパソコンでBBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開く場合は、いったんETHERNETケーブルでパソコンと本機器を接続します。
   ※他のパソコンでBBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開く場合は、手順2に進みます。
2. BBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開きます。
3. Windows 8 / Windows 7の場合は、「無線LAN設定」-「無線LAN詳細設定(2.4GHz)」または「無線LAN詳細設定(5GHz)」を選択して、「対象ネットワークを選択」でプライマリSSIDを選択し、暗号化モードを「暗号化無効」に設定して、「設定」をクリックします。
   ※Windows 7以外の場合は、手順4に進みます。
4. 左のメニューから「無線LAN設定」をクリックします。
5. 左のメニューから「WPS設定」をクリックします。
6. 「PIN方式」の「使用する」をチェックします。
7. 「WPSの状態」の「Configured」のチェックを外します。

8. 本機器のPINコードを確認します。
   「再生成」をクリックすると無線LANアクセスポイントのPINコードを再生成し、「初期値に戻す」をクリックすると工場出荷状態に戻ります。

9. 「設定」をクリックし、「保存」をクリックします。
10. 無線LAN子機を接続したパソコンで上記の設定をした場合は、パソコンからETHERNETケーブルを取り外して、10秒待ちます。
    ※他のパソコンで設定した場合は、手順10に進みます。
11. 無線LAN 子機側に本機器のPINコードを入力し、WPS機能を起動します。
    無線設定が完了すると、橙点灯（約10秒間）します。
    ※PINコードの入力画面の表示方法およびWPSの起動方法については、無線LAN子機に添付の取扱説明書などを参照してください。

※Windows 8 / Windows 7の無線LAN内蔵パソコンをご利用の場合は、通知領域（タスクトレイ）に表示されているネットワークアイコンをクリックし、接続するネットワーク名(SSID)をクリックして「自動的に接続する」にチェックを入れ、「接続」をクリックします。ルータのセットアップを促すメッセージが表示されますので、Windows 8の場合は「セットアップする」を、Windows 7の場合は「OK」をクリックしたあと、本機器のPINコードなどの情報を入力して、WPS機能を起動してください。

不正アクセスの防止

無線LAN子機側でPINコードを10回間違えるとロック状態になり接続できません。ロック状態を解除するには、「ロック解除」をクリックするか、本機器を再起動してください。

備考

「WPSの状態」は、以下の場合、自動的に「Configured」に設定されます。

- 本機器の無線LAN設定が変更された場合
- 「WPS機能」を用いて、無線LAN子機の設定を変更した場合
- 本機器の設定を初期化した場合

こんなときは・・・

手動で無線接続する

「SSIDステルス機能」を利用して、本機器のネットワーク名（SSID）を隠している場合は、ここで説明している方法で設定を行ってください。

Windowsをご利用の場合

Windows 8の場合

【手順】

1. 「スタート」画面から「デスクトップ」をクリックします。
2. 画面右上隅または右下の隅にマウスのカーソルを移動します。
3. 右側にメニューが表示されますので、「設定」をクリックします。
4. 「コントロールパネル」をクリックします。
5. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
6. 「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリックします。
7. 「ワイヤレスネットワークに手動で接続します」を選択し、「次へ」をクリックします。
8. 「ネットワーク名」に本機器のネットワーク名（SSID）を入力します。
   ※お届け時のネットワーク名（SSID）は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。
9. 「セキュリティの種類」および「暗号化の種類」のプルダウンメニューから、本機器に設定されたセキュリティの種類を選択します。
   ※お届け時は以下のように設定されています。

   セキュリティの種類
   「WPA2-パーソナル」

   暗号化の種類
   「AES」

10. 「セキュリティ キー」に本機器の暗号化キーを入力します。
    ※お届け時の暗号化キーは、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。
11. SSIDステルス機能を利用している場合は、「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」にチェックを入れます。
    「次へ」をクリックします。
    ※「この接続を自動的に開始します」にチェックを入れておくと、自動的に接続が行われます。
12. 「正常に"○○○（入力したネットワーク名）"を追加しました」と表示されたことを確認し、「閉じる」をクリックします。
    「アクティブなネットワークの表示」で、入力したネットワーク名に「接続」と表示されていれば、設定は完了です。

Windows 7 / Windows Vistaの場合

【手順】

1. 「スタート」から「コントロールパネル」をクリックします。
2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
3. 「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリックします。
   ※Windows Vistaをご利用の場合は、「接続またはネットワークのセットアップ」をクリックします。
4. 「ワイヤレス ネットワークに手動で接続します」を選択し、「次へ」をクリックします。
5. 「ネットワーク名」に本機器のネットワーク名（SSID）を入力します。
   ※お届け時のネットワーク名（SSID）は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます

6. 「セキュリティの種類」および「暗号化の種類」のプルダウンメニューから、本機器に設定されたセキュリティの種類を選択します。
※お届け時は以下のように設定されています。

セキュリティの種類
「WPA2-パーソナル」

暗号化の種類
「AES」

7. 「セキュリティ キー（または「セキュリティ キーまたはパスフレーズ」）」に本機器の暗号化キーを入力します。
※お届け時の暗号化キーは、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。

8. SSIDステルス機能を利用している場合は、「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」にチェックを入れます。
「次へ」をクリックします。
※「この接続を自動的に開始します」にチェックを入れておくと、自動的に接続が行われます。

9. 「正常に"○○○（入力したネットワーク名）"を追加しました」と表示されたことを確認し、「閉じる」をクリックします。
「ワイヤレスネットワーク接続（ 入力したネットワーク名）」に「接続」と表示されていれば、設定は完了です。

Mac OSをご利用の場合

【手順】

1. 「アップルメニュー」から「システム環境設定」をクリックします。

2. 「ネットワーク」をクリックします。

3. 左のメニューから「Wi-Fi」をクリックします。
「状況」が「入」と表示されていることを確認します。
「状況」が「切」と表示されている場合は、「Wi-Fiを入にする」をクリックしてください。

4. 「詳細」をクリックします。

5. 「＋」をクリックします。

6. 「ネットワーク名」に本機器のネットワーク名（SSID）を入力します。
※お届け時のネットワーク名（SSID）は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。

7. 「セキュリティ」のプルダウンメニューから、本機器に設定されたセキュリティの種類を選択します。
※お届け時は「WPA2パーソナル」が設定されています。

8. 「パスワード」に本機器の暗号化キーを入力します。
「OK」をクリックします。
※お届け時の暗号化キーは、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。

9. 「使ったことのあるネットワーク」に入力した「 ネットワーク名（SSID）」が表示されていることを確認します。
「OK」をクリックします。

10. 「適用」をクリックします。
「状況」に「接続済み」と表示されていれば、設定は完了です。

Androidをご利用の場合

【手順】

1. アプリケーション一覧の画面を表示し、「設定」をタップします。

2. 「Wi-Fi」のバーを右にスライドして、有効に変更します。
※すでに「Wi-Fi」が有効になっている場合は、本操作は必要ありません。手順3.にお進みください。

3. 「Wi-Fi」をタップします。

4. 「Wi-Fiネットワークを追加」をタップします。

5. 「ネットワークSSID」に本機器の「ネットワーク名（SSID）」を入力します。
※お届け時の「ネットワーク名（SSID）」は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。

6. 「セキュリティ」のプルダウンメニューから、本機器に設定されたセキュリティの種類を選択します。
   ※お届け時は「WPA/WPA2 PSK」が設定されています。
7. 「パスワード」に本機器の「暗号化キー」を入力します。
   ※お届け時の「暗号化キー」は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。
8. 「保存」をタップします。
   入力した「ネットワーク名（SSID）」に「接続」と表示されれば、設定は完了です。

iOSをご利用の場合

【手順】

1. 「設定」をタップします。
2. 「Wi-Fi」をタップします。
3. 「Wi-Fi」が「オン」になっていることを確認します。
   「Wi-Fi」が「オフ」になっている場合は、「オン」に切り替えてください。
4. 「その他...」をタップします。
5. 「名前」に本機器の「ネットワーク名（SSID）」を入力します。
   ※お届け時の「ネットワーク名（SSID）」は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。
6. 「セキュリティ」をタップします。
7. 一覧から本機器に設定されたセキュリティの種類を選択します。
   ※お届け時は「WPA2」が設定されています。
8. 「その他」をタップします。
9. 「パスワード」に本機器の「暗号化キー」を入力します。
   ※お届け時の「暗号化キー」は、本機器の側面に貼付された装置情報ラベルでご確認いただけます。
10. 「接続」をタップします。
    入力した「ネットワーク名（SSID）」の左にチェックマークが表示されていれば、設定は完了です。

FAQ

FAQの説明のトップです。左のメニューで項目を選択してください。

困ったときには・・・

管理者パスワードを忘れた

【状況】
BBIQ光電話無線ルータ設定画面のログイン用パスワードを忘れログインできない・・・

【対策】
iA201WL4を初期状態（設置当初の状態）に戻すことで、パスワードも初期値に戻ります。
しかし、同時に設定状態も初期状態に戻ってしまいますので、初期化後は初期パスワードを使ってBBIQ光電話無線ルータ設定画面にログインし、再度設定を行ってください。

本機器を初期化する

注意

- 管理者パスワードをお忘れになった場合など、BBIQ光電話無線ルータ設定画面にログインできない場合に、本体の初期化ボタンをご利用ください。
- 各機能の設定を初期状態に戻す場合は、BBIQ光電話無線ルータ設定画面の「設定値の初期化」をご利用ください。

BBIQ光電話無線ルータ設定画面から初期化する

【手順】

1. ご利用のブラウザを起動して、BBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開き、左のメニューから「メンテナンス」をクリックします。
2. 左のメニューから「設定値の初期化」をクリックします。
3. 「設定値の初期化」をクリックします。
4. 内容をご確認の上、「OK」をクリックします。
   再起動が行われます。そのままお待ちください。
   「再起動が完了しました」と表示されれば、初期化は完了です。

本体の初期化ボタンから初期化する

【手順】

1. 本機器前面の電源ランプが緑点灯していることを確認します。
   ※電源を入れ直した場合や、電源を入れた直後の場合は、40秒ほどお待ちください。
2. 本機器の背面にある初期化ボタンを細い棒状のもの（つまようじの先など、電気を通さない材質のもの）で押し続け、アラームランプが赤点灯をはじめたら離します。
   ※アラームランプが赤点灯するまで、約6秒～10秒かかります。

   本機器の前面のランプが一斉に緑点滅したあと、電源ランプが緑点灯したら初期化は完了です。

本機器の設定を保存・復元する

設定を保存する

【手順】

1. ご利用のブラウザを起動して、BBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開き、左のメニューから「メンテナンス」をクリックします。
2. 左のメニューから「設定値の保存＆復元」をクリックします。
3. 「ファイルへ保存」をクリックします。
   設定ファイルを任意の場所へ保存してください。
4. 「保存」の「▼」をクリックし、「名前を付けて保存」をクリックします。
5. 「デスクトップ」を選択し、「保存」をクリックします。
6. デスクトップに設定ファイルが保存されたことを確認してください。

設定を復元する

【手順】

1. ご利用のブラウザを起動して、BBIQ 光電話無線ルータ設定画面を開き、左のメニューから「メンテナンス」をクリックします。
2. 左のメニューから「設定値の保存＆復元」をクリックします。
3. 「参照（または『ファイルを選択』）」をクリックします。
4. 保存したファイルを選択し、「開く」をクリックします。
5. 「設定値の復元」をクリックします。
6. 内容をご確認の上、「OK」をクリックします。
   再起動が行われます。そのままお待ちください。

   注意

   「設定値の復元」をクリックすると、現在、本機器に設定されている値が、保存していた設定内容で上書きされます。

7. 「OK」をクリックします。
   再起動が完了したら、設定を復元する方法は完了です。

困ったときには・・・

検索しても見つからない[無線LAN端末]

【状況】
無線LAN端末で無線アクセスポイントの検索をしても、iA201WL4が見つからない・・・

【対策】
無線1(2.4GHz)または無線2(5GHz)のランプが緑になっているかどうか確認してください。

1. 無線1(2.4GHz)または無線2(5GHz)のランプが緑の場合

    - ESS-IDステルス機能が「使用する」にチェックされている場合は、無線LANアクセスポイントの検索をしても本機器は見つかりませんので、ESS-IDステルス機能の「使用する」のチェックを外して再度確認してください。

    - ESS-IDステルス機能が「使用する」にチェックされていない場合は、無線アクセスポイントの検索を繰り返してください。
      端末によっては、近くに無線アクセスポイントがたくさんあると、一度の検索では本機器が見つからないことがあります。

2. 無線1(2.4GHz)または無線2(5GHz)のランプが緑以外の場合は無線を使用することができません。ランプ表示については、取扱説明書の「ランプ表示」を参照してください。

    - 無線1(2.4GHz)または無線2(5GHz)のランプが橙となっている場合は無線LANが未使用に設定されていますので、無線LAN基本設定の2.4GHz通信機能および5GHz通信機能を「使用する」にチェックしてください。